

Al Mayadeen English

19 Sep 2023

G77 首脳会議（ハバナ）は多国間世界の建設に向けた大きな一歩

The G77+China Havana Summit is a bold step

toward building a multilateral world

<https://english.almayadeen.net/articles/analysis/the-g77china-havana-summit-is-a-bold-step-toward-building-a>

by Rabi Sankar Bosu

リード

「77 グループと中国」（以下 G77）がハバナで開催された。会議は、志を同じくする発展途上国が結びつきを強め、アメリカの "攻撃的な帝国主義政策" に反対するグローバル・サウスの声を上げる絶好の機会となった。

本文

キューバは、2023 年 1 月 12 日にパキスタンから G77 の輪番議長国を引き継いだ。

そしてキューバは 9 月 15 日、首都ハバナで G77 サミットを開催した。

サミットには、134 の開発途上国、特にグローバル諸国が単一の議場に

会した。そして協力、開発、イノベーションに関する共同討議を深めながら、共通の経済的利益を促進した。

1971 年に G77 が結成されて以来、ラテンアメリカの国がこの注目すべきイベントを主催したのは今回が初めてであった。

この 2 日間の会議は、9 月 9 日と 10 日にニューデリーで開催されたインド主催の G20 首脳会議の後に続くように行われた。テーマは「現在の開発課題」であった。

サミット 2 日目には、「科学、技術、イノベーションの役割」をテーマに、47 条からなるハバナ最終宣言が採択された、

ハバナ最終宣言は、地政学的な格差の中で、グローバル・サウスのすべての国が開発途上国の要求を共同して掲げた。また、グローバル・サウスを、多極化した世界における強力な勢力とするために、共同の決意を強調した。

米国が主導する西側世界の外交封鎖を打ち破ったキューバ

COVID-19 後の経済不況、地理的紛争、気候変動、食糧・エネルギー危機に直面する世界の暗い流れの中で、キューバは G77 の手綱を握った。

アントニオ・グテーレス国連事務総長が 1 月 12 日の引き継ぎ式でこう述べた。

「毎年、毎年、皆さんは、すべての国が望むより良く、より公平で、より持続可能な未来を実現するために、世界的な解決策を議論し、討論し、増幅させるために共に立ち上がっています。

私は開発途上国への大規模な支援を通じて世界経済を再活性化する必要性を強調したいと思います。G77 は「持続可能な開発目標」(SDGs) に向けて前進しています。その事によ

り国連を支援しています。そのことに謝意を表明します」

G77+中国サミットは、キューバのミゲル・ディアス＝カネル・ベルムデス大統領に、志を同じくする発展途上国との関係を強化し、アメリカの "攻撃的な帝国主義政策 "に反対するグローバル・サウスの声を上げる絶好の機会を与えたことは間違いない。

特筆すべきは、アメリカ政権が 60 年以上もキューバに広範な貿易・経済制裁を課してきたことである。あまつさえトランプ前政権は何の根拠もなく、キューバを「テロ支援国家」に再指定したのである。

6 月 15 日、イランのライシ大統領をハバナで歓迎した際、ディアス＝カネル大統領は次のように述べた。ベネズエラ、ニカラグア、キューバ、そしてイランは、ヤンキー帝国主義とその同盟国による脅威、封鎖、干渉に、粘り強く抵抗し、勇敢に立ち向かった国々である。

このように、ニューヨークでの国連総会の数日前にキューバの首都で開催された G77 サミットには、約 30 力国の首脳を含む 100 以上の代表団が参加し、キューバへの信頼と連帯を明らかにした。

ブラジルのルラ大統領、ベネズエラのマドゥロ大統領、コロンビアのペトロ大統領、モザンビークのニューシ大統領、アルゼンチンのフェルナンデス大統領、パレスチナのアッバス大統領、アンゴラのルーレンコ大統領、ベトナムのホン・ハ副首相など、世界の指導者たちが出席した。それはカリブ海の島国キューバが G77 メンバーから孤立していないことを証明している、それどころか、G77 サミットの開催は、米国の外交封鎖に対するキューバの "偉大な勝利" である。

G77 サミットの重要性

1964 年に結成された G77 グループには、再加盟したメキシコを加えて、現在 135 の発展途上国と新興国が加盟している。このブロックは、世界人口の 80% 以上、国連加盟国の 3 分の 2 を占めている。

この集団は、国連と南南協力の枠組みの中で、集団的経済利益を促進し、経済と持続可能な開発問題について加盟国の能力を強化しようというビジョンを持っている。

キューバのディアス＝カネル大統領は、G77 が結束を強め、世界的な課

題に取り組む上で、この首脳会議の重要性を強調した。

特に、2023 年 8 月 24 日に南アフリカのヨハネスブルグで開催された第 15 回 BRICS 首脳会議の対話における演説では、その重要性を強調した、

ディアス＝カネル大統領は次のように述べ、グローバル・サウスの声を強調した。

「西側先進国と巨大多国籍企業は、自分たちに都合の良い国際秩序を設計してきた。それは南の国々の進歩に敵対し、ごく一部のものにとってのみ有効であることが証明された」これは、アメリカ主導の西側世界に対する直接的な非難である。

9 月 15 日、2 日間にわたる会議の開幕にあたり、ディアス＝カネル大統領は、国際秩序形成における「南半球」の強力化を強調した。

「南の国々は、もはやすべての不幸の重みに耐えることはできない。唯一の有効な道は、連帯して共に歩むことである」

今年の G77 プラス中国フォーラムは、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の実施と SDGs の達成を加速させるための科学、技術、イノベーションに焦点を当てている。

サミットのテーマである「科学とイノベーション」を想起しつつ、キューバ大統領は欧米諸国を批判した。

「医薬品分野におけるイノベーションへの投資の90%は北欧諸国の典型的な疾病に集中し、南欧諸国の典型的な疾病には10%しか集中していない。このバランスを取り戻す必要があり、このサミットの勢いは非常に重要である」

G77 サミットは、9月16日を「南の科学・技術・イノベーションの日」と宣言した。

途上国の共通の権利と利益を指摘した、

われわれは、国際社会および国連システムの関連機関に対し、次のような緊急行動をとるよう求める。

現在および将来のパンデミック予防の準備と対応に必要な保健関連措置、製品および技術への適時かつ公平なアクセスを促進すること。

新国際秩序への発言

一方、アントニオ・グテーレス国連事務総長はG77を「多国間主義の擁護者」と評し、平等に根ざしたシステムを支持するよう求めた。

そして何世紀にもわたって放置されてきた不公正と怠慢を覆すことので

きるシステムを支持すること、特権階級のためではなく、全人類のために提供されるシステムを作り上げることを訴えた。

ハバナ・サミットに集まった代表者たちは、南北間のデジタル・デバイド（情報格差）に目を向け、すべての人に役立つ科学、イノベーション、テクノロジーの必要性を強調した。

このサミットが、科学技術の発展における正義と公正を促進したことは間違いない。

ハバナ宣言の第43項にはこうある。

「我々は、国連地域委員会、機関、基金およびプログラム、特にUNDP、UNESCO、UNCTAD、UNIDO、ITU および国連南南協力事務所に対し、それぞれの職務権限の範囲内で、科学、技術およびイノベーションに関連する制度的枠組みおよび公共政策の強化において開発途上国を支援するためのさらなる努力を行うよう求める」

ハバナ宣言は、より公平な国際経済社会秩序を求める途上国の長年の要求を再確認した。同時に、これは先進国の技術支配を終わらせることによってのみ達成できると強調した。

中国はキューバの良き友人

77 グループ結成以来、中国はブロックの正当な要求を支持し、加盟国との協力関係を維持してきた。

世界第2位の経済大国として、中国は常にグローバル・サウスの声を支持し、多国間フォーラムで自国の利益を擁護している。

中国とキューバは1960年9月に国交を樹立して以来、絶えず変化する国際情勢にもかかわらず、年を追うごとに関係を深めてきた。

昨年11月、北京の人民大会堂にディアス・カネル大統領を迎えた習主席は、「中国とキューバは互いに信頼し合う良き友人であり、同じ大義にコミットする良き同志であり、苦楽を共にする良き兄弟である」と強調した。

8月23日のBRICS首脳会議の付随会談で、習主席は、キューバがG77の現議長として、発展途上国の団結と協力の強化に積極的に貢献してきたと強調した。

G77で中国の代表を務めた、政治局常務委員の李習主席はこう語った。

「中国は世界最大の発展途上国であり、グローバル・サウスの当然のメンバーである。われわれはキューバや他のG77加盟国と協力し、より強固な連帯を通じてより大きな発展を追求する南南協力の新たな章を開き、未来を共有する南半球共同体を構築し、共同発展の新時代を切り開く用意がある」

インドはG77の創設メンバーの一人

先日閉幕したG20サミットでは、モディ首相が「グローバル・サウス」のリーダーであることをアピールしたが、G77サミットにインドの政権幹部が出席しなかったことは残念である。

G77サミットにインド代表として出席したのは、外務省（MEA）のサンジャイ・ヴァーマ長官（西半球担当）だった。

インド外交官はイベントでの発言で、同グループに対し、二国間問題に惑わされることなく、国連で経済と開発の課題について声をひとつにして発言し、グループの団結と連帯を強化するよう呼びかけた。

保護主義、一国主義、覇権主義により、世界の多国間システムは危機に瀕している。

キューバと G77 の他のメンバーが、国連の枠組みの下で、開発途上国の共通の利益と開発権を強化することが望まれる。